

平成 29 年 2 月 28 日

# 敬愛短大附属幼稚園だより 3月号



## 子どもの遊びは学びです



先日、園庭でこんな光景を見かけました。花壇の前に正方形の板(90cm×90cm)を用意して、5歳児クラスの子供5・6人が集まってこままわしをしています。とにかく楽しそうな雰囲気です。様子を見てみると、「〇〇さんはこままわしがとても上手だ」とか、「チャレンジ賞をもらっているのは〇〇さんと〇〇さんだよ」、「わたしはもう少しでチャレンジ賞もらうんだ」などいろいろな話をしながらこままわしをしています。

この子どもたちは友だちと集まってこまをまわすことが楽しいのです。だれかと競争してどれだけ上手にまわすかを比べるのではなく、ただこまをまわすことだけでつながっているのです。正方形の板が、ある意味主役でもあります。もし、その板がなかったらどうでしょうか。この板は遊びを支える重要な環境となっています。この板を子どもたちと一緒につくったのが先生のアイデアであり素晴らしい環境ができたのです。

本園で初めて2月初めに公開保育を行いました。公開保育というのは、自分たちの保育を他の幼稚園の先生方に見てもらい、そのよさや課題などを学び合う研修会です。また、他園で取り組んでいることをお互いに交流します。今回は千葉市内の幼稚園の先生方や短大の学生が集まりました。一番多くを学んだのが本園の先生方です。これまで「遊びとは何か、どうすればその遊びが充実し子どもたちが満足するか」「どのような言葉かけをする」と遊びが継続し発展するのかなど、よりよい保育を目指して努力を続けているのが、本園の先生方です。先生方の目標に向かって努力したことが当日の子どもたちの遊びにつながっていました。

本園の子どもたちの遊びに少しずつ変化が見られます。学年に応じて工夫しながら子どもたちが遊んでいます。5歳児になれば相談しながら遊びを展開します。共通目標に向かってだれが何をするのか、集まって相談します。敬愛スーパーで売るものを作る、チラシを作っては、店長が店員にお客さんの接し方について指導する、子どもたちは自分の経験を生かし、なりきって生き生きと遊んでいます。前回紹介したどろだんごづくりも物語のある遊びです。3歳児の子どもに5歳児の子どもが作り方を教えています。しかし、3歳児はなかなかうまくいきません。それでも5歳児はつくりかたのこつをていねいに教えています。教えるというよりは語っています。かみあわない会話ですが、その中で3歳児の子どもも5歳児の子どもも共に成長しています。

子どもたちの遊びは、保育者が何もしないとすぐに終わってしまいます。保育者の適切なかわりがあつて初めて遊びが深まります。子どもたちの遊びには物語があり次々につながり広がります。遊びは一つのきっかけで展開が変わります。子どもの一言です。その一言を保育者は予測することはできません、こうなさいと指示することはできません。保育者が指示するとその遊びは子どもたちのものではなくなります。保育者の指示が多くなると遊びはつまらなくなります。先ほど板を囲んでこま回しを楽しんでいる子どもたちに保育者は余計な言葉かけはしません。公開保育の当日、先生方は多くのことを学び、それが子どもたちの遊びの変化に確実につながっています。

子どもたちは誰かに言われたからするのではなく、自分たちが遊びたいから遊んでいるのです。主体的に活動することで主体性を育てることができるのです。だから遊びが大切なのです。子どもたちはこの一年間 幼稚園の中でさまざまな遊びを通して成長してきたのです。その姿を見ていただいたのが、先日の参観日の子どもたちの様子です。4月の頃と比べるとできるようになったことがふえてきています。そこには生き生きとした遊びがあるのです。子どもたちの成長につながる遊びをこれからも幼稚園では大切にしていきます。(山中 護)